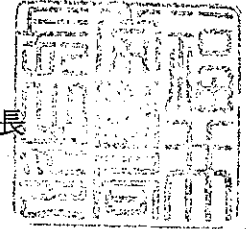


福井労発基 0314 第 3 号の 1

平成 29 年 3 月 14 日

(公社) 福井県労働基準協会長 殿

福井労働局長



「STOP! 熱中症 クールワークキャンペーン」の実施について



日頃は、労働災害防止をはじめ、労働行政の推進につきまして、御理解、御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

熱中症の予防については、第 12 次労働災害防止計画（以下「12 次防」という。）において、重点とする健康確保・職業性疾病対策の一つとしてあげられており、平成 20 年から 24 年までの 5 年間と比較して、平成 25 年から平成 29 年までの 5 年間の職場での熱中症による休業 4 日以上の死傷者の数（各期間中（5 年間）の合計値）を 20%以上減少させる、との目標が設定されているところです。

これまで、平成 21 年 6 月 19 日付け基発第 0619001 号「職場における熱中症の予防について」に基づく対策をはじめとして、毎年、重点事項を示して、その予防対策に取り組んできたところですが、12 次防期間中の全国の発生件数は、平成 29 年 1 月現在の速報値で、平成 20 年から 24 年までの 5 年間の発生件数の 95%に達し、あと 1 年を残して、12 次防期間中の目標件数を上回る状況となっています。

このうち、全国の平成 28 年における熱中症の発生状況は、死亡災害については対前年で大幅増加となった平成 27 年を下回り平成 26 年並みになりましたが、死傷災害については、平成 27 年と同程度となる見込みです（詳細については別紙 1 をご参照ください）。

また、福井県の平成 28 年における熱中症の発生状況は 3 人と前年比と同数となっております。（詳細につきましては、別紙 2 をご参照ください。）

熱中症の予防のためには、その発症の評価指標となる WBGT 値（暑さ指数）を測定し、その結果に基づき適切な措置を講じることが必要ですが、今般、簡易に WBGT 値を測定できる「電子式湿球黒球温度（WBGT）指数計」について、その精度を担保するための日本工業規格が制定され、JIS B 7922 として 3 月 21 日に公示される予定となっています。

このような状況を踏まえ、日本工業規格に準拠した WBGT 測定器の普及を図り、職場における熱中症予防対策の徹底を図ることを目的として、厚生労働省と労働災害防止団体等が主唱者となり、関係省庁との連携の下、別添のとおり標記キャンペーンを実施することとしたところです。

厚生労働省におきましては、別添の7（1）の事項について実施することとしておりますが、貴会におかれましても、別添の7（2）の事項につきまして、実情に応じた効果的な手法により実施していただきますようお願いいたします。また、会員事業場等に対し、その御周知を図っていただきますとともに、各事業場において確実な取組が行われますよう、特段のご配慮をお願いいたします。

職場における熱中症による死傷災害の発生状況
(平成 29 年 1 月末時点速報値)

1 熱中症による死傷者数の推移 (平成 19~28 年分)

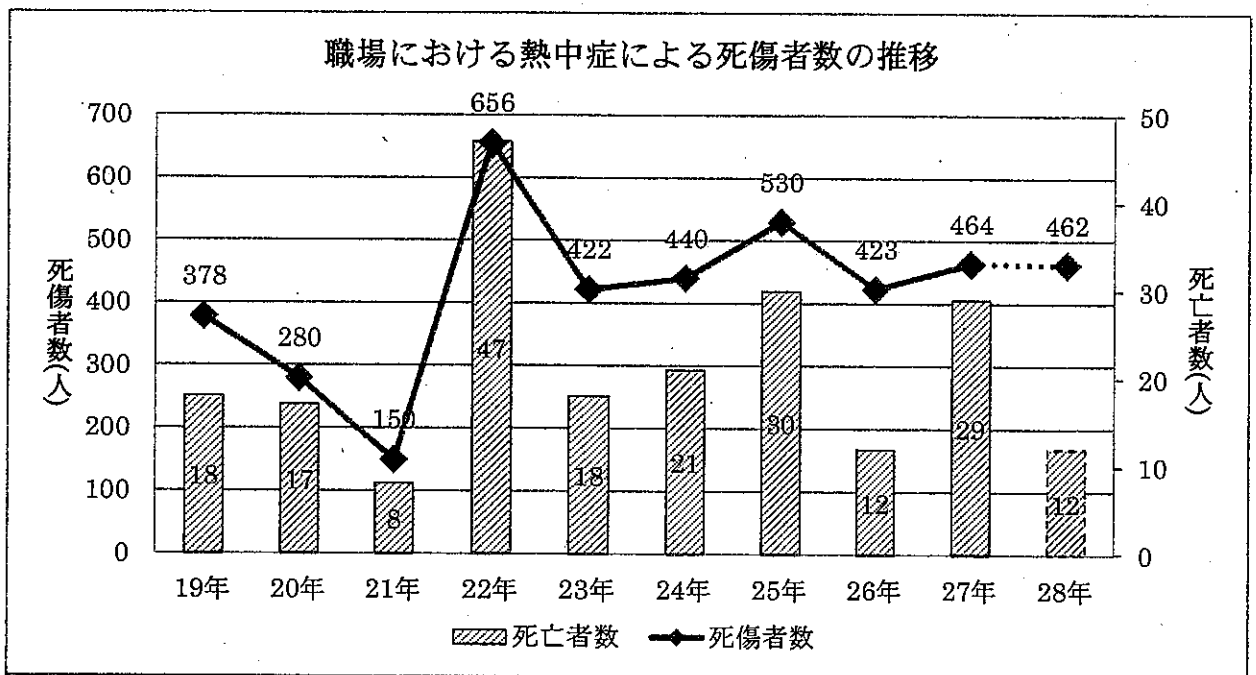
過去 10 年間 (平成 19~28 年) の職場での熱中症による死亡者及び休業 4 日以上の業務上疾病者の数 (以下合わせて「死傷者数」という。) をみると、平成 22 年に 656 人と最多であり、その後も 400~500 人台で推移している。

平成 28 年の死亡者数は 12 名と平成 27 年に比べ減少したが、死傷者数は、平成 27 年とほぼ同数となっている。

職場における熱中症による死傷者数の推移 (平成 19~28 年) (人)

19 年	20 年	21 年	22 年	23 年	24 年	25 年	26 年	27 年	28 年
378	280	150	656	422	440	530	423	464	462
(18)	(17)	(8)	(47)	(18)	(21)	(30)	(12)	(29)	(12)

() 内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数



※ 平成 28 年の数は、平成 29 年 1 月末時点の速報値であり、今後、修正されることがあり得る。

2 業種別発生状況（平成 24～28 年）

過去 5 年間（平成 24～28 年）の業種別の熱中症の死傷者数をみると、建設業が最も多く、次いで製造業で多く発生しており、全体の約 5 割がこれらの業種で発生している。

平成 28 年は、前年に死亡災害が多発した建設業、警備業のうち、警備業においては、死亡災害の発生はなかったが、建設業では、死亡災害全体の半数に当たる 6 名が死亡した。

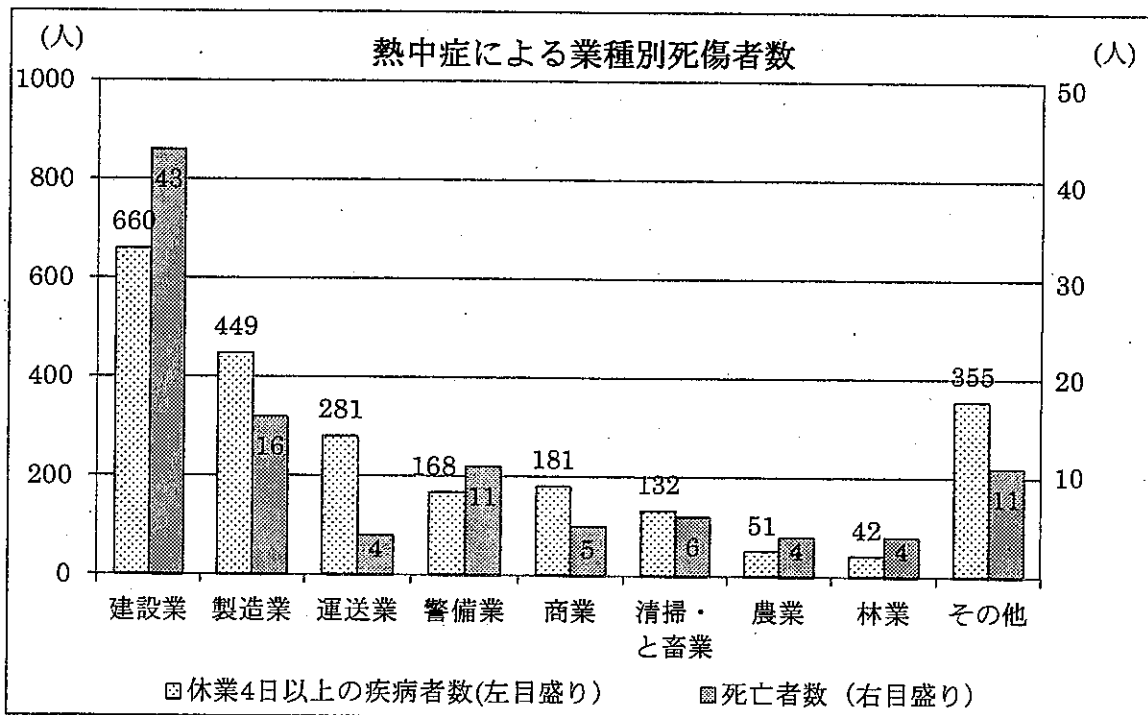
熱中症による死傷者数の業種別の状況（平成 24～28 年）

（人）

業種	建設業	製造業	運送業	警備業	商業	清掃・ と畜業	農業	林業	その他	計
平成 24 年	143 (11)	87 (4)	43 (0)	27 (2)	35 (0)	28 (1)	7 (0)	6 (2)	64 (1)	440 (21)
平成 25 年	151 (9)	96 (7)	68 (1)	53 (2)	31 (3)	28 (2)	8 (1)	8 (1)	87 (4)	530 (30)
平成 26 年	144 (6)	84 (1)	56 (2)	20 (0)	28 (0)	16 (0)	13 (1)	7 (0)	55 (2)	423 (12)
平成 27 年	113 (11)	85 (4)	62 (1)	40 (7)	50 (0)	23 (2)	13 (1)	8 (0)	70 (3)	464 (29)
平成 28 年 (速報値)	109 (6)	97 (0)	52 (0)	28 (0)	37 (2)	37 (1)	10 (1)	13 (1)	79 (1)	462 (12)
計	660 (43)	449 (16)	281 (4)	168 (11)	181 (5)	132 (6)	51 (4)	42 (4)	355 (11)	2,319 (104)

※（ ）内の数値は死亡者数で内数である。

※平成 28 年の数は、平成 29 年 1 月末時点の速報値であり、今後、修正されることがあり得る。



3 月・時間帯別発生状況

(1) 月別発生状況 (平成 24~28 年)

平成 24 年以降の月別の熱中症の死傷者数をみると、全体の約 9 割が 7 月及び 8 月に発生している。

平成 28 年の死亡者数は、7 月は 1 名であったが、8 月に 7 名が死亡した。

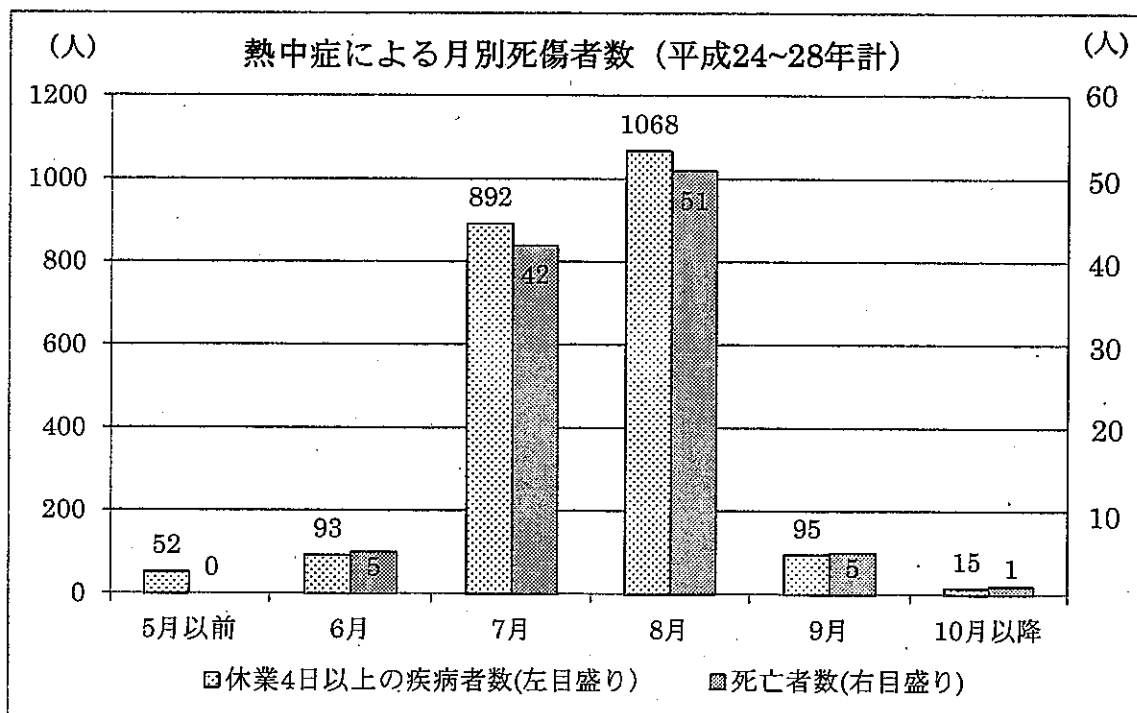
熱中症による死傷者数の月別の状況 (平成 24~28 年) (人)

	5 月 以前	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月 以降	計
平成 24 年	3 (0)	6 (0)	194 (11)	202 (9)	35 (1)	0 (0)	440 (21)
平成 25 年	16 (0)	15 (1)	185 (14)	295 (14)	12 (0)	7 (1)	530 (30)
平成 26 年	6 (0)	32 (0)	182 (6)	191 (5)	8 (1)	4 (0)	423 (12)
平成 27 年	15 (0)	19 (2)	212 (10)	210 (16)	7 (1)	1 (0)	464 (29)
平成 28 年 (速報値)	12 (0)	26 (2)	161 (1)	221 (7)	38 (2)	4 (0)	462 (12)
計	52 (0)	98 (5)	934 (42)	1,119 (51)	100 (5)	16 (1)	2,319 (104)

※ 5 月以前は 1 月から 5 月まで、10 月以降は 10 月から 12 月までを指す。

※ () 内の数値は死亡者数で内数である。

※ 平成 28 年の数は、平成 29 年 1 月末時点の速報値であり、今後、修正されることがあり得る。



(2) 時間帯別発生状況 (平成 24~28 年)

平成 24 年以降の時間帯別の死傷者数をみると、14~16 時台に多く発生している。なお、日中の作業終了後に帰宅してから体調が悪化して病院へ搬送されるケースも散見される。

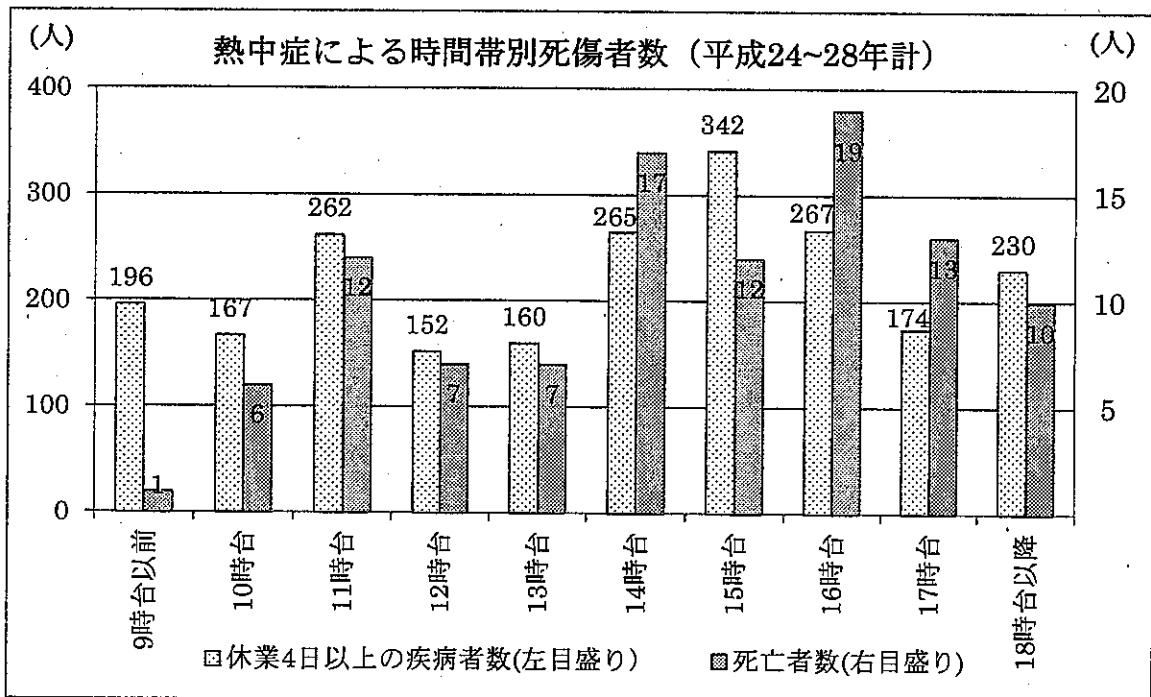
熱中症による死傷者数の時間帯別の状況 (平成 24~28 年) (人)

	9時台以前	10時台	11時台	12時台	13時台	14時台	15時台	16時台	17時台	18時台以降	計
平成 24 年	39 (0)	34 (3)	60 (4)	35 (2)	31 (1)	53 (2)	67 (2)	50 (3)	31 (1)	40 (3)	440 (21)
平成 25 年	40 (0)	40 (2)	55 (2)	25 (1)	29 (1)	68 (6)	78 (3)	88 (6)	49 (6)	58 (3)	530 (30)
平成 26 年	24 (0)	39 (0)	46 (2)	43 (1)	32 (1)	47 (2)	69 (1)	48 (3)	31 (0)	44 (2)	423 (12)
平成 27 年	45 (0)	23 (1)	61 (3)	34 (2)	41 (3)	59 (6)	66 (3)	53 (5)	37 (4)	45 (2)	464 (29)
平成 28 年 (速報値)	49 (1)	37 (0)	52 (1)	22 (1)	34 (1)	55 (1)	74 (3)	47 (2)	39 (2)	53 (0)	462 (12)
計	197 (1)	173 (6)	274 (12)	159 (7)	167 (7)	282 (17)	354 (12)	286 (19)	187 (13)	240 (10)	2,319 (104)

※ 9時台以前は0時台から9時台まで、18時台以降は18時台から23時台までを指す。

※ () 内の数値は死亡者数で内数である。

※ 平成 28 年の数は、平成 29 年 1 月末時点の速報値であり、今後、修正されることがあり得る。



4 平成 28 年の熱中症による死亡災害の事例（速報^(注1)）

番号	月	業種	年代	事案の概要
1	6	林業	60 歳代	<p>被災者は、広葉樹の伐採現場において、他の労働者とともに午前 10 時から立木の伐倒及び造材作業を行っていた。午後 3 時頃、同僚が伐倒作業を行っていた被災者に作業終了を告げ、先に集合場所へ戻ったが、なかなか被災者が集合場所に戻らないため、再度、呼びに行ったところ、斜面に倒れている被災者を発見した。医療機関に救急搬送したが、4 日後に死亡した。被災者は当該事業場の労働者として作業に従事した初日であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境省熱中症予防情報サイトによる WBGT 値は、30.3℃（参考^(注2)） ・被災者に対する健康診断が実施されていなかった。
2	6	廃棄物処理業	50 歳代	<p>午後から敷地内の草刈り作業を行うこととなり、被災者は午後 1 時から午後 2 時 30 分まで草刈機で草刈り作業を行い、1 時間の休憩後、同僚と共に敷地内の雑木の切り枝の回収業務等を行い、午後 4 時に作業を終えた。作業終了後、被災者はベンチで休憩を取っていたが、午後 4 時 30 分頃嘔吐し、発汗が多かったことから熱中症の疑いで救急搬送された。搬送後意識を失い、翌々日死亡した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境省熱中症予防情報サイトによる WBGT 値は、28.4℃（参考^(注2)） ・被災者は熱中症発症に影響を与えるおそれのある疾患を有していた。
3	7	農業	50 歳代	<p>被災者は、7 時よりビニールハウス内や屋外で、苗の水やり等の作業を行っていた。同僚と被災者の 2 名は、15 時 50 分頃から始めたビニールハウス内の夜冷庫への苗の移動作業中、辛そうな様子の被災者を確認した同僚から休んでいるように促されビニールハウス内で休憩をしていたところ、同僚が被災者の異変を感じ、救急車で病院に搬送したが、搬送先の病院で 5 日後に死亡した。被災者は採用 3 日目であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境省熱中症予防情報サイトによる WBGT 値は、33.1℃（参考^(注2)）
4	8	建築工事業	30 歳代	<p>被災者は、基礎型枠の解体作業において、単管等の資材の受け渡し等の作業に従事していたが、体調が悪くなってうずくまり、その後、その場に倒れこんだ。すぐに救急車を手配して病院へ搬送したが、およそ 3 時間後に死亡が確認された。被災者は採用 3 日目であった。また、発注者が現場近くで測定していた作業時の WBGT 値は、27℃であった。</p>

4 平成 28 年の熱中症による死亡災害の事例（速報^(注1)）

番号	月	業種	年代	事案の概要
1	6	林業	60 歳代	<p>被災者は、広葉樹の伐採現場において、他の労働者とともに午前 10 時から立木の伐倒及び造材作業を行っていた。午後 3 時頃、同僚が伐倒作業を行っていた被災者に作業終了を告げ、先に集合場所へ戻ったが、なかなか被災者が集合場所に戻らないため、再度、呼びに行ったところ、斜面に倒れている被災者を発見した。医療機関に救急搬送したが、4 日後に死亡した。被災者は当該事業場の労働者として作業に従事した初日であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境省熱中症予防情報サイトによる WBGT 値は、30.3℃（参考^(注2)） ・被災者に対する健康診断が実施されていなかった。
2	6	廃棄物処理業	50 歳代	<p>午後から敷地内の草刈り作業を行うこととなり、被災者は午後 1 時から午後 2 時 30 分まで草刈機で草刈り作業を行い、1 時間の休憩後、同僚と共に敷地内の雑木の切り枝の回収業務等を行い、午後 4 時に作業を終えた。作業終了後、被災者はベンチで休憩を取っていたが、午後 4 時 30 分頃嘔吐し、発汗が多かったことから熱中症の疑いで救急搬送された。搬送後意識を失い、翌々日死亡した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境省熱中症予防情報サイトによる WBGT 値は、28.4℃（参考^(注2)） ・被災者は熱中症発症に影響を与えるおそれのある疾患を有していた。
3	7	農業	50 歳代	<p>被災者は、7 時よりビニールハウス内や屋外で、苗の水やり等の作業を行っていた。同僚と被災者の 2 名は、15 時 50 分頃から始めたビニールハウス内の夜冷庫への苗の移動作業中、辛そうな様子の被災者を確認した同僚から休んでいるように促されビニールハウス内で休憩をしていたところ、同僚が被災者の異変を感じ、救急車で病院に搬送したが、搬送先の病院で 5 日後に死亡した。被災者は採用 3 日目であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境省熱中症予防情報サイトによる WBGT 値は、33.1℃（参考^(注2)）
4	8	建築工事業	30 歳代	<p>被災者は、基礎型枠の解体作業において、単管等の資材の受け渡し等の作業に従事していたが、体調が悪くなってうずくまり、その後、その場に倒れこんだ。すぐに救急車を手配して病院へ搬送したが、およそ 3 時間後に死亡が確認された。被災者は採用 3 日目であった。また、発注者が現場近くで測定していた作業時の WBGT 値は、27℃であった。</p>

11	9	その他の建設業	30歳代	<p>土壌等の仮置場において、密閉容器から鋼製容器に土壌等に移し替えるため、被災者は密閉容器のふたを開ける作業を行っていたところ、暑さによる疲れがみられたため車で休憩していたが、15分後に体調が急変し病院に搬送された。意識不明であったが、2週間後に死亡した。被災者は現場入場2日目であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境省熱中症予防情報サイトによるWBGT値は31.1℃(参考^(注2)) ・被災者は熱中症発症に影響を与えるおそれのある疾患を有していた。
12	9	土木工事業	30歳代	<p>屋根の防水工事において、被災者は午前8時から当該工事の補助作業に従事していたが、17時頃作業終了後、同僚と現場近くの宿舎に徒歩で戻り、17時50分頃、宿舎エレベーターを降りたところで意識を失い倒れた。直ちに病院に搬送されたが、翌日死亡した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境省熱中症予防情報サイトによるWBGT値は30.7℃(参考^(注2)) ・被災者に対して熱への順化期間は設けられていなかった。 ・被災者に対する健康診断が実施されていなかった。 ・被災者は熱中症発症に影響を与えるおそれのある疾患を有していた。

(注1) 平成29年1月末時点の速報であり、今後、内容が修正されることがあり得る。

(注2) 現場でWBGTの測定が行われていなかった事例には、環境省熱中症予防サイトで公表されている現場近隣の観測所におけるWBGT値を参考値として示した。

過去 10 年間の職場での熱中症による労働災害の発生状況 (福井県)
(平成 19 年から平成 28 年分)

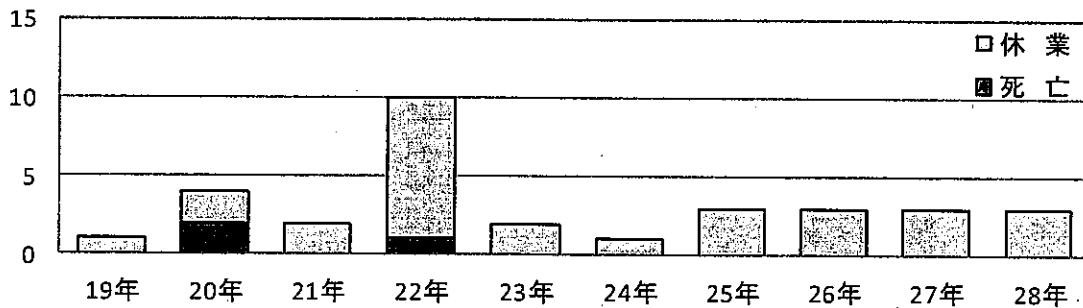
1 熱中症による死傷者数の推移

過去 10 年間の職場での熱中症による休業 4 日以上の子傷者数は、合計 32 人となっており、最高は平成 22 年の 10 人であった。過去 10 年間毎年発生している。熱中症による死亡災害は、平成 23 年以降は発生していない。

熱中症による休業 4 日以上の子傷災害の年別発生状況 (人)

年 (平成)	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	合計
死亡		2		1							3
休業	1	2	2	9	2	1	3	3	3	3	29
合計	1	4	2	10	2	1	3	3	3	3	32
屋内		1			2	1		1		2	7

年別発生状況



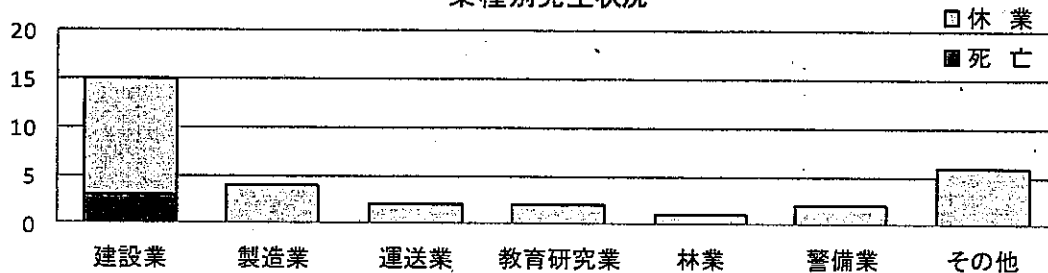
2 業種別発生状況

業種別の発生状況をみると、建設業が全体の約半数近くを占めている。

業種別発生状況 (人)

業種	建設業	製造業	運送業	教育研究業	林業	警備業	その他	合計
死亡	3							3
休業	12	4	2	2	1	2	6	29
合計	15	4	2	2	1	2	6	32

業種別発生状況



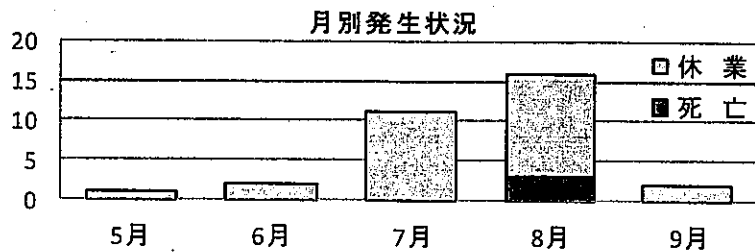
3 月・時間帯別発生状況

(1) 月別発生状況

月別発生状況をみると、7月及び8月に8割以上発生している。
 なお、発生年月日は、最も早い日で5月24日であり、最も遅い日で9月7日である。

月別発生状況 (人)

月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
死亡				3		3
休業	1	2	11	13	2	29
合計	1	2	11	16	2	32



(参考) 熱中症による月別・業種別発生状況 (人)

月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
建設業			6	8		14
製造業			1	2		3
運送業				2	1	3
教育研究業			1		1	2
林業				1		1
警備業			1	1		2
その他	1	2	2	2		7
計	1	2	11	16	2	32

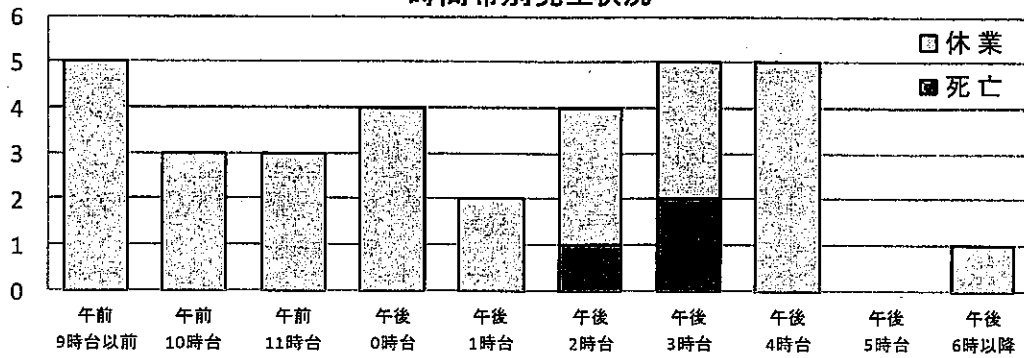
(2) 時間帯別発生状況

時間帯別発生状況をみると、午前11時台から午後4時台の間に約7割が発生している。

時間帯別発生状況 (人)

時間帯	午前9時台以前	午前10時台	午前11時台	午後0時台	午後1時台	午後2時台	午後3時台	午後4時台	午後5時台	午後6時以降	合計
死亡					1	2					3
休業	5	3	3	4	2	3	3	5		1	29
合計	5	3	3	4	2	4	5	5	0	1	32

時間帯別発生状況



4 熱中症が発生した屋外作業の気象条件

熱中症による死傷者数 32 人の作業環境は、屋外が 25 人、屋内が 7 人である。

熱中症が発生した屋外作業の気象条件は、その日の最高気温 (災害発生時より前に限る。) が最も低い日で 24.3℃ (同時刻の湿度は 95%)、最も高い日で 35.4℃ (同時刻の湿度は 51%) であった。

なお、屋外作業における、熱中症が発生した日の最高気温 (災害発生時刻より前に限る。) は、30℃以上での発生が 7 割近くを占めている。

※ 平成 28 年の数値は平成 29 年 2 月末時点の速報値であり、今後、修正されることがある。

5 熱中症による休業4日以上の労働災害の発生状況の詳細

No	月	年	業種	発生 時間帯	屋外の 気温※	区分	事案の概要
1	5	28	その他	午前 10時台	-	休業	被災者は、ライン作業による生産作業中(屋内)、体調不良となった。
2	6	23	その他	午前 10時台	-	休業	被災者は、店舗の倉庫(屋内)において在庫を整理中、体調不良となった。
3	6	22	その他	午後 3時台	29.5℃	休業	被災者は、配達作業中、体調不良となった。
4	7	26	製造業	午前 9時台	-	休業	原料処理作業場(屋内)において、高さ1m程度の台上で、原料小分け作業を約1時間実施後、体調不良となった。
5	7	26	建設業	午前 9時台	25.0℃	休業	前日に午前7時頃から1日中屋外で草刈り作業を実施し、多量の発汗があった。その翌日出勤するものの、直後に体調不良となった。
6	7	21	建設業	午前 10時台	24.3℃	休業	被災者は、事業場内の機材倉庫において、機材整理作業中、体調不良となった。
7	7	26	警備業	午前 11時台	34.5℃	休業	交通誘導の業務を実施していたが、体調不良となった。
8	7	19	その他	午後 0時台	27.1℃	休業	被災者は、畑において、片付け等の作業中、体調不良となった。
9	7	25	建設業	午後 0時台	33.6℃	休業	被災者は、工事のため現場調査作業中、体調不良となった。
10	7	22	建設業	午後 1時台	33.4℃	休業	被災者は、土木工事現場において、道路掘削等の作業中、体調不良となった。
11	7	22	建設業	午後 3時台	32.6℃	休業	被災者は、家屋の解体現場において、窓枠の解体作業中、体調不良となった。
12	7	22	建設業	午後 4時台	29.0℃	休業	被災者は、住宅新築工事現場において、スコップを用いて外構の掘削作業中、体調不良となった。
13	7	21	教育研究業	午後 4時台	27.8℃	休業	被災者は、遺跡の発掘調査現場において、草刈り作業中、体調不良となった。
14	7	20	その他	午後 4時台	34.3℃	休業	被災者は、現場で廃棄物の搬出作業中、体調不良となった。
15	8	22	建設業	午前 9時以前	31.8℃	休業	被災者は、木造住宅新築現場において、建方2日目の外壁取付作業中、体調不良となった。
16	8	25	農業	午前 9時以前	24.7℃	休業	被災者は、水田での防草剤散布作業中、体調不良となった。
17	8	27	建設業	午前 11時台	33.7℃	休業	被災者は、トラックで運んできた工所用機材の整理作業中、体調不良となった。

18	8	23	建設業	午前 11時台	-	休業	被災者は、ビル新築工事現場(屋内)において、設備工事中、体調不良となった。
19	8	27	建設業	午後 0時台	34.1℃	休業	被災者は、基礎工事のためのコンクリート打設作業中、体調不良となった。
20	8	24	製造業	午後 0時台	-	休業	派遣労働者である被災者は、夏季休暇明けに、工場(屋内)の炉の輻射熱に加え、気候による温度上昇のため、体調不良となった。
21	8	22	林業	午後 2時台	35.4℃	休業	被災者は、草刈り作業中、体調不良となった。
22	8	20	製造業	午後 2時台	-	休業	被災者は、炉が設置されている工場内(屋内)で、荷物の積降作業中、体調不良となった。
23	8	20	建設業	午後 2時台	33.0℃	死亡	被災者は、解体工事現場において、廃材の仕分作業中、体調不良を起こし、その後死亡した。
24	8	25	建設業	午後 2時台	32.9℃	休業	被災者は、道路舗装工事で転圧作業中、体調不良となった。
25	8	22	運送業	午後 3時台	33.1℃	休業	被災者は、屋外において、トラックの荷台に反物手積中、体調不良となった。
26	8	22	建設業	午後 3時台	31.6℃	死亡	被災者は、バイブライン修繕工事において、廃材運搬作業に従事していたが、倒れているところを発見され、その後死亡した。
27	8	20	建設業	午後 3時台	34.1℃	死亡	被災者は、造成工事現場において、土木作業中、倒れているところを発見され、その後死亡した。
28	8	27	警備業	午後 4時台	32.9℃	休業	被災者は、花火大会周辺の交通誘導作業中、体調不良となった。
29	8	22	運送業	午後 6時以降	28.0℃	休業	被災者は、引越し作業終了後、体調不良となった。
30	8	28	その他	午前 7時台	-	休業	洗濯機で洗ったタオルを乾燥させるため、ボイラー室内(屋内)で干し作業や取り込み作業に従事していたところ、翌日朝体調不良となった。
31	9	22	教育研究業	午後 1時台	34.6℃	休業	被災者は、遺跡の発掘工事現場において、スコップを用いて掘削作業中、体調不良となった。
32	9	28	建設業	午後 4時台	30.6℃	休業	被災者は、鉄筋の組み立て作業に従事していたところ、体調不良となった。

※熱中症が発生した日の発生地域の最高気温(災害発生時刻より前に限る。)